

第14回 甲状腺検査評価部会 開催報告

1 日時：令和2年1月20日（月） 13：30～15：30

2 場所：ザ・セレクトン福島 本館3階 吾妻

3 出席者：部会員8名

4 部会長選出・副部会長指名について

部会長は互選により鈴木元部会員が選出（再任）された。

副部会長は今井常夫部会員が部会長により指名された。

5 説明事項等**(1) 甲状腺検査評価部会の検討事項について**

事務局より第36回検討委員会（令和元年10月7日開催）で協議された甲状腺検査評価部会の検討事項について説明し、部会員による確認を行った。

- ・ 先行検査、検査2回目、検査3回目を通した全体的な解析について
- ・ 地域がん登録、全国がん登録を使った解析について

部会員より、解析においてはがん登録の利用、個人線量などの解析、臨床がん罹患率との違いなどが検討課題として挙げられた。

(2) 甲状腺検査の概要、本格検査（検査3回目）の結果等について

福島医大より、甲状腺検査の概要等（資料2）、検査3回目、25歳時の節目の検査の実施状況（資料3-1、3-2）、検査3回目までの実施結果（資料4）について報告を行った。

(3) 今後の解析等に対する部会員意見

部会員からの主な意見は次のとおり。今後、部会員の助言、サポートを受けながら医大において解析等を進めていく。

- ・ より詳細な甲状腺被ばく線量を使った解析が重要である。
- ・ 1回目、2回目、3回目の個別の検診歴を把握し集計した上で解析することが考えられる。
- ・ 2回目、3回目の検査で甲状腺がんが発見された方たちについて、先行検査の時の年齢階層とがんと診断された時の年齢階層、結節の状態が前回はどうだったかというような情報をまとめたほうが良い。
- ・ 検査を受けていない人の罹患状況についてがん登録で把握していくことが重要である。
- ・ がん登録を使って、まず、甲状腺検査で見ついているものとがん登録で見ついているものがどれだけオーバーラップしているか、どのくらい欠落しているかを見る必要がある。
- ・ 罹患（がん登録）の情報、検診（甲状腺検査）の情報、線量の情報を使って評価していくことが重要である。
- ・ 受診率の低下の客観的な評価として甲状腺検査に関する意識がどのように変わってきたのかサンプリング調査なりアンケートなどを実施する必要があるのではないかと。
- ・ 自然史を理解する上で経過観察例などの情報などがあるとよい。